

## 若手社員のためのスーパーエコタウン研修会《第2回》

令和6年10月30日(水)、人材確保プロジェクト(二木玲子リーダー)は、昨年度に引き続き、会員企業の新入社1~3年目の若手社員等を対象とした「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会《第2回》」を東京スーパーエコタウン(大田区城南島)において実施しました。参加者は43名でした。(事務局)



参加者の皆さま(成友興業・屋上にて)

まず、成友興業(株)の会議室をお借りして、プロジェクトメンバーである山下田鶴氏(東港金属(株))が講師となり「サーキュラーエコノミーのおさらいをしよう」「資源循環業界を取り巻く環境と施策、政策について理解を深めよう」をテーマに掲げ『資源循環業で働く人のための基礎講座』を行った。

その後、参加者は二班に分かれ、成友興業(株)、高俊興業(株)の各施設を交替で見学した。

昼食をはさみ、午後は(株)アルフォ、(株)リーテムの各施設を二班交代で見学した後、会議室に戻り、8つのグループに分かれディスカッションを行った。テーマはグループ毎に決め、最後に各グループの代表者が

議論の経緯や結果について発表した。

取り上げられたテーマは、3Rに関する取組/本日の研修会で学んだこと/「働き方」について/リサイクルの重要性/ドライバー不足の解決策/事故防止と各社の取組/サーキュラーエコノミーに向けての取組/収集運搬業のドライバー問題など多岐にわたっていた。

以上で研修会の全行程を終了し、全員無事に帰途に就いた。

最後になりましたが、研修会にご参加いただきました会員企業の皆さま、また研修会運営にご協力いただきましたスーパーエコタウン各施設の皆さまには心より感謝申し上げます。

◇参加者の代表3名様からご提出いただいた感想文をご紹介します。

## スーパーエコタウン研修会《第2回》を終えて

新和環境株式会社 栗田 惟吹

10月30日に開催された「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会」では、高俊興業株式会社、成友興業株式会社、株式会社リーテム、株式会社アルフォの4つの企業の施設見学を行いました。今回の施設見学では、どの企業も「廃棄物」に関連するということで、専門的な説明を聴くことができました。また、施設の中には処理を適切に、効率よく行うために、最先端技術を搭載した選別機械や、機械の装置に工夫が施されていることを知りました。

4つの企業はそれぞれ異なる種類の廃棄物処理を行っており、それぞれの分野に特化した処理を行っている反面、施設では受け入れることができない廃棄物もあります。専門外の廃棄物はもちろん、施設全体で受け入れることができない廃棄物の代表例として、バッテリーや電池等が挙げられます。特に、バッテリーや電池は破砕機に入れてしまうと、衝撃で発火してしまう恐れがあるため、特に注意を払わなければいけません。バッテリーや電池を適切に取り除き、廃棄物の中に混入させないためには、手作業での処理を行わざるを得ません。ですが、近年ではAI技術の普及や最先端技術を活用している企業も増えてきているので、危険物の取り扱いとの併用が可能になれば、異なる視点から廃棄物処理の新たな道が拓かれると考えます。

施設見学後は8つのグループに分かれ、グループディスカッションを行いま

した。私自身、同業者の方々とコミュニケーションを取る機会がこれまでに少なかったため、今回のグループディスカッションは私にとって大変貴重な経験となりました。同業者ということもあり、段々と会話が弾むようになり、「廃棄物」をテーマに様々な視点から意見を出すことができました。また、普段は打ち明けられない悩みや相談事も、同業者であり同年代の皆で共有し、不安を解消するために助言を与えたりし、支え合うこともできました。

廃棄物処理を行う役割を担っている我々は、何事も決して単独で行うのではなく、廃棄物処理業者全体がチーム一丸となって事業を進めていくことが大切だと考えます。そのためには1人1人が自覚と意識を持つことが必要となり、今回の「若手社員のためのスーパーエコタウン研修会」では、我々が廃棄物処理業者の1人であるという自覚と意識を再確認できた場でもありました。

今後「スーパーエコタウン研修会」では、廃棄物処理業の若手社員はもちろん、廃棄物処理に関係がない方々にも、少しでも興味や関心を持ってもらうように「見学会」として実施をしてみるのも良いと思いました。一般の方々には関係がないように思いますが、様々な施設で廃棄物処理を行っているおかげで「今」があり、我々の生活と表裏一体でもあるので、より多くの方々に廃棄物処理を知ってもらうことも大切だと考えます。

## スーパーエコタウン研修会《第2回》を受講して

大谷清運 株式会社 落合 治子

令和6年10月30日(木)、新卒や第二新卒で入社1～3年目の若手社員を対象に開催された東京都産業資源循環協会主催の「スーパーエコタウン研修会《第2回》」に参加させていただく機会を得ました。

最初に参加者全員が成友興業(株)の会議室に集合し、人材確保プロジェクトメンバーである山下田鶴氏による～業界をとりまく環境について～の演題で資源循環業に働く人のための基礎講座を受講しました。

2つの持ち帰りテーマもいただき、資源循環業で働く人として当然求められる知識であるサーキュラーエコノミーの再確認と、待ったなしの資源循環業を取り巻く環境、施策、政策について丁寧に講義していただきました。

その後2班に分かれ東京都よりスーパーエコタウン事業に選定された建設混合廃棄物リサイクル施設の高俊興業(株)、コンクリートがらや泥土リサイクル施設の成友興業(株)、そして昼食休憩をはさみ廃情報機器類等リサイクル施設の(株)リーテム、食品廃棄物飼料化・バイオガス発電施設の(株)アルフォの施設見学をさせていただきました。

4企業のリサイクル施設で扱う廃棄物はそれぞれ別のものであるものの、どの施設にお伺いしても施設内、施設外に対する環境対策や安全対策がゆきとどいており、足早ではありましたが、廃棄物が施設に搬入され最終的に純度の高い再資源化製品になるまでの一連の行程をス

ムーズに見学させていただくことができました。

また、どの施設においても、高い品質のリサイクル材を得るために様々な創意工夫がされているのが良くわかり、業界のスペシャリストとして誇りをもって仕事に取り組んでいるのが感じられました。

さらに、今回の研修会を通して、廃棄物処理をめぐる大きな時代の流れも感じることができました。

廃棄物処理の目的は、生活環境の保全にあることはもちろんですが、最近では、3Rの推進によりサーキュラーエコノミーの社会を実現させることが大きな課題であることが実感できました。

また、新しく制定された「再資源化事業等高度化法（略称）」など最近の情報についての講義もあり、この中では、今や廃棄物処理においても、地球温暖化対策が最大の課題であることが良く理解できました。

研修の最後には、参加者によるディスカッションの場も用意され、同業他社の皆さんの様々な意見に触れることができ、参考になるとともに大変刺激になりました。

資源循環業に携わるものとして、今回の研修で得た知識を活かし、時代の流れを感じとり、常に先を見すえて業務に頑張っていきたいと思いました。

最後になりましたが、このような貴重な研修を実施していただき、参加させていただいた関係者の皆様にお礼を申し上げます。

## スーパーエコタウン研修会を通して感じたこと

高俊興業 株式会社 田井 愛実

今回参加させていただいた研修会では、スーパーエコタウンの他社工場見学や、グループディスカッションなどにより、資源循環業界に対する関心をより高めることができる有意義なものになりました。

研修当日はサーキュラーエコノミー(CE)を中心とした概要説明を聴いた後、2つのグループに分かれて「高俊興業(株)」、「成友興業(株)」、「(株)アルフォ」、「(株)リーテム」の4社の工場を見学しました。弊社の工場では建設現場で発生する廃棄物の中間処理をおこなっていますが、成友興業(株)では、がれき・汚泥・汚染土壌、(株)アルフォでは食品、(株)リーテムでは廃情報機器類などとそれぞれ扱うのが異なり、初めて知ることばかりでした。受け入れている廃棄物や処理方法に違いが見られるものの、資源を再生し循環させるための取り組みは全ての工場で共通しておこなわれていました。

グループディスカッションではグループに分かれ、それぞれがテーマを決め、自由に話し合いがおこなわれました。私のグループでは、ドライバーの人手不足により廃棄物の収集運搬が追い付いていないことが課題として挙がったため、業界全体が抱えている2024年問題、ドライバー不足に対してどのように向き合っていくのかを話し合いました。持ち込み車で対応や、インターネットを積極的に活用してドライ

バーの募集の幅を広げるべきとの意見があがりました。

最終的には、手厚い福利厚生などにより働きやすい環境をつくることができれば課題改善に繋がるのではないかという結論に達しました。

他のグループでは持続可能な社会にするための必要な取り組みや、収集運搬・処分中での事故を防止する方法、工場見学を通して学んだことなど、興味深い内容がいくつも取り上げられていました。

私は営業事務として産業廃棄物の運搬・処分に必要な契約書を主に作成しているため、社外の方との交流や、実際に工場へ足を運ぶ機会はほとんどありませんでした。しかし、今回の研修会に参加したことで広い視点から資源循環に関して考え、理解を深めることができました。普段、外部の方と直接関わる機会がなくても、他の工場でおこなわれている処理の実態を把握することは業務を円滑に進める上で重要であると考えています。

今回、同じ業界の方と交流する機会をいただけたことをとても嬉しく思います。資源循環業界は今後、益々必要不可欠な需要高い業界になっていくはずで、この業界に携わっている者として、研修会で得た学びを業務に活かし貢献していきたいと思えます。



- ① 講演風景
- ② 成友興業にて
- ③ 高俊興業にて
- ④ アルフォにて
- ⑤ リーテムにて
- ⑥ グループディスカッションの様子 1
- ⑦ グループディスカッションの様子 2

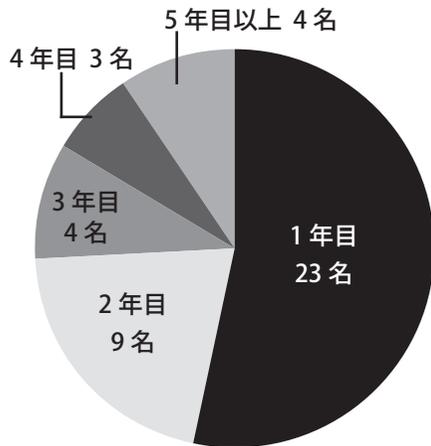
グループディスカッション発表風景



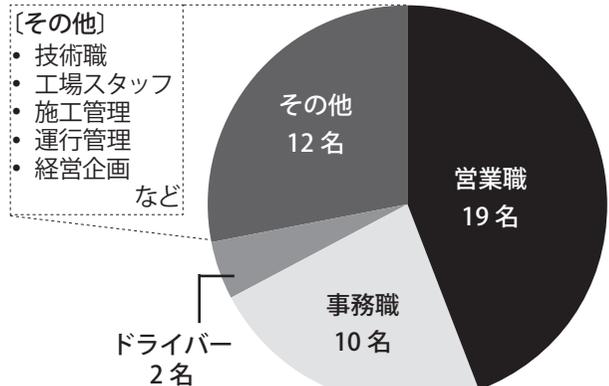
『若手社員のためのスーパーエコタウン研修会《第2回》』  
アンケート結果（抜粋）

回答数：43名（全参加者）

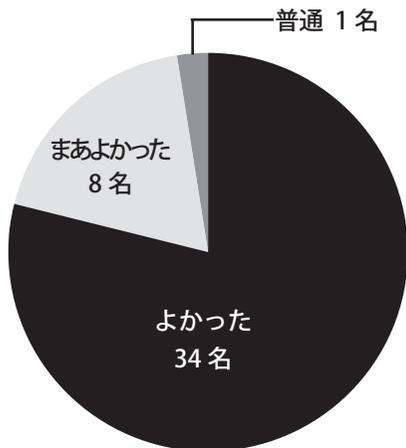
●入社して何年目？



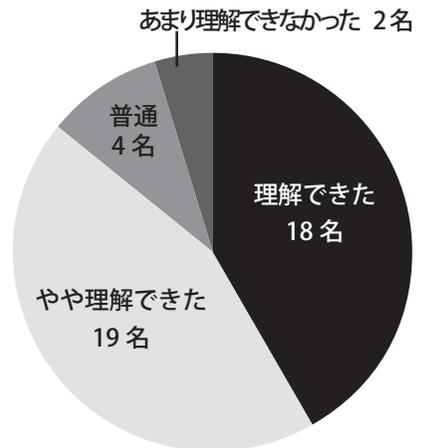
●職種は？



●研修会の満足度は？



●研修内容の理解度は？



●とくに多かったご意見ご感想（類似回答の集計）

- ・他社の処理施設を見学できる機会、同業他社の方と交流できる機会があまりなかったのがよかった。
- ・様々な廃棄物処理について一日で見学できるのがよかった。
- ・各処理施設とも動画等での概要説明があり実際の施設見学とあわせとてもわかりやすかった。
- ・業界が同じでも扱う品目や処理方法が異なる会社の施設見学ができてとても参考になった。

- 同業他社の現場を実際に見てリスク管理やリサイクルの取組等大変参考になる部分が多かった。
  - リチウムイオン電池の混入により発生する発火事故等の重大性について再認識した。
  - 各施設とも整理整頓されてきれいだったことが印象的であった。事故防止のためにも重要なことであり自社でも一層気をつけていきたい。
  - サーキュラーエコノミーについての意識、各処理施設での取組を自社に持ち帰って共有したい。
  - サーキュラーエコノミーや法制度など業界を取り巻く環境が変化していくことをもっと知っておく必要があると思った。
  - グループディスカッションで同業他社の方と意見交換ができたことは貴重な経験になった。
  - グループディスカッションでは同業者のかかえている悩みや課題等に共通点が多いことを実感した。
- 
- 多くの施設を一日で見学することにもメリットはあるが各施設をじっくり見学したかったとも思う。
  - 説明の中にあまり関わりのない業種等の専門用語が出てきたときに理解しきれないことがあった。
  - グループディスカッションのテーマは統一したほうがもっと多方面からの意見を知ることができたと思う。
  - 研修会後半のグループディスカッションまで自己紹介や名刺交換の時間がなく、前半の施設見学中は参加者同志の会話も少なかったので、研修会ははじめに交流機会がほしいかった。

など